

会議の状況

I 平成28年度第1回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会

1. 日 時 平成28年4月26日(火) 14:00~16:00

2. 場 所 アラスカ 地下1階 サファイア

3. 出席委員 23名

4. 提出資料

資料 1 会議の状況

資料 2 原子力施設環境放射線調査報告書(案)(平成27年度第3四半期報)

資料 3 東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書(案)(平成27年度第3四半期報)

参考資料1 原子燃料サイクル事業の現在の状況について

参考資料2 東通原子力発電所の現在の状況について

参考資料3 リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況について

5. 概要

(1) 議事

ア 原子力施設環境放射線調査結果(平成27年度第3四半期報)について

(ア) 原子燃料サイクル施設

県及び日本原燃(株)から資料2により説明があり、次のとおり評価された。

- ・原子燃料サイクル施設に係る平成27年度第3四半期の環境放射線等調査結果は、これまでと同じ水準であった。原子燃料サイクル施設からの影響は認められなかった。

(イ) 東通原子力発電所

県及び東北電力(株)から資料2により説明があり、次のとおり評価された。

- ・東通原子力発電所に係る平成27年度第3四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。東通原子力発電所からの影響は認められなかった。

(ウ) リサイクル燃料備蓄センター

県から資料2により説明があり、次のとおり評価された。

- ・リサイクル燃料備蓄センターに係る平成27年度第3四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。

委員から、空間放射線量率測定結果が過去の測定値の範囲を上回った事象に関連して、過去の測定値の最大値を観測した時期について質問があり、県から、概ね第3四半期に最大値を観測している、との回答があった。

また、過去の測定値の範囲を上回った測定値が観測されたときの天候及び積雪について質問があり、県から、雪またはみぞれが降っていたものの、積雪までは至っていなかった、との回答があった。

委員から、β線ガスモニタの校正試験の詳細について質問があり、県から、モニタの感度確認にはγ線源であるバリウム-133を用いてきたところであるが、精密点検で感度の低下が確認されたことから、外部機関でクリプトン-85を用いた実ガス校正を実施したものであり、その結果感度の低下は確認されなかった、との回答があった。

また、今後の対応について質問があり、県から、今後の感度確認は、バリウム-133よりγ線エネルギーが高いセシウム-137やクリプトン-85と同じβ線源の塩素-36を用いて行っていく、との回答があった。

イ 東通原子力発電所温排水影響調査結果（平成27年度第3四半期報）について

県から資料3により説明があり、今後も引き続き調査を継続し、データの収集に努めていくこととした。

(2) その他

ア 原子燃料サイクル事業の現在の状況

日本原燃(株)から参考資料1により各事業の運転状況等について説明があった他、再処理施設における埋込金物の浮き上がりに伴う調査等について説明があった。

イ 東通原子力発電所の現在の状況

東北電力(株)から参考資料2により東通原子力発電所の運転状況等について説明があった他、非常用発電機からの軽油漏えい等について説明があった。

ウ リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況

リサイクル燃料貯蔵(株)から参考資料3により新規規制基準に係る適合性審査の状況等について説明があった。

委員から、再処理施設の一般共同溝における埋込金物の浮き上がりの調査について質問があり、事業者から、一般共同溝以外の再処理施設全体の埋込金物について、外観検査等では異常がなかったことを確認しており、現在、超音波探傷検査を実施中である、との回答があった。

II 平成28年度第1回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議監視委員会

1. 日 時 平成28年6月17日(金) 14:00~16:00

2. 場 所 青森国際ホテル 3階 萬葉の間

3. 出席委員 33名

4. 提出資料

資料 1 会議の状況

資料 2 環境放射線モニタリングの流れ

冊 子 原子力施設環境放射線調査報告書(平成27年度第3四半期報)

冊 子 東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書(平成27年度第3四半期報)

参考資料1 原子燃料サイクル事業の現在の状況について

参考資料2 東通原子力発電所の現在の状況について

参考資料3 リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況について

広 報 誌 モニタリングつうしんあおもり No. 100

5. 概 要

(1) 議事

ア 原子力施設環境放射線調査結果(平成27年度第3四半期報)について

(ア) 原子燃料サイクル施設

県及び日本原燃(株)から冊子により説明があり、次のとおり確認された。

- ・原子燃料サイクル施設に係る平成27年度第3四半期の環境放射線等調査結果は、これまでと同じ水準であった。原子燃料サイクル施設からの影響は認められなかった。

(イ) 東通原子力発電所

県及び東北電力(株)から冊子により説明があり、次のとおり確認された。

- ・東通原子力発電所に係る平成27年度第3四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。東通原子力発電所からの影響は認められなかった。

(ウ) リサイクル燃料備蓄センター

県から冊子により説明があり、次のとおり評価された。

- ・リサイクル燃料備蓄センターに係る平成27年度第3四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。

イ 東通原子力発電所温排水影響調査結果(平成27年度第3四半期報)について

県から冊子により説明があり、今後も引き続き調査を継続し、データの収集に努めていくこととした。

(2) その他

ア 原子燃料サイクル事業の現在の状況

日本原燃(株)から参考資料1により各事業の運転状況等について説明があった他、ガバナンス強化等の観点から経営機構改革を実施すること等について説明があった。

イ 東通原子力発電所の現在の状況

東北電力(株)から参考資料2により東通原子力発電所の運転状況等について説明があった他、敷地内断層に関する補足調査の追加実施や緊急時対策所の設計見直し等について説明があった。

ウ リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況

リサイクル燃料貯蔵(株)から参考資料3により新規規制基準に係る適合性審査の状況等について説明があった。

委員から、平成27年12月に発生した日本原燃(株)再処理工場使用済燃料受入れ・貯蔵建屋(管理区域内)の火災の責任の所在について質問があり、事業者から、原子力規制庁とともにIAEA(国際原子力機関)に対して原因究明と再発防止対策を要請している、との回答があった。